

# 視野を地球の裏側まで広げる —ブラジルから見えるグローバル化の諸相より—

学校所在府県：兵庫県	指導時数：4時間
学校名：灘中学・高等学校	対象学年：高等学校1～3年生合同授業
名前：中西 健介（英語）	対象人数：30人
実践教科：総合的学習の時間	

## 1. 教師海外研修を通して感じたこと

ブラジルから見える様々なことは、日本のあり方を再発見するものであった。異文化から学ぶには、自らの文化を相対化する謙虚な姿勢が必要である。

テーマを事前に練り上げて、学ぶ者としてのクオリティを高めておくことが大切。しかし、「授業に活かす」という視点を持つと、写真・動画の撮り方から、質問の作り方まで、なにもかもが変わる。先回りして考え、どんどん材料を収集すべき。

## 2. カリキュラム

### (1) 実践の目的・背景

自身の将来について想像する時、社会、世界への貢献まで視野に入れられている者は少ない。様々な事柄が相互に関連していることに気づき、自らの関わり方を考えることによって、「良い生き方」を模索できるようになる。

### (2) 授業の構成

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
<b>1時限目</b> ブラジルの日常の中のグローバル化に気づく。	●写真から、ブラジルの多様性と、日常生活の中の隠れたグローバル化を発見する。	●写真 ●パワーポイント
<b>2時限目</b> ブラジルの様々な姿と問題、それらと世界とのつながりを学ぶ①	●経済発展・貧困・農業・教育・環境・先進国の6つの要素のそれぞれの特徴を理解させ、それらの互いの関連を図示して描き出させる。	●写真 ●ワークシート ●NHKTVビデオ ●教材プリント
<b>3時限目</b> ブラジルの様々な姿と問題、それらと世界とのつながりを学ぶ②	●ブラジルを中心としたグローバル化マップを作成する。	●写真 ●ワークシート
<b>4時限目</b> 自身のこれからの生き方について考える。	●インタビュー動画を見てブラジルに生活する人々の活動の、今までの授業の内容を参考にし、「生き方」についてのレポートを作成する。	●教材プリント ●ワークシート

### 3. 授業の詳細

## 1 時限目：ブラジルの日常の中のグローバリゼーションに気づく

ねらい…何気ない日常生活の中に、様々なグローバリゼーションの影響が潜んでいることに気づき、世界とのつながりを認識する。

#### ◆内容◆

- ① 2枚の写真を配布し、そこから気づくことを箇条書きで何でも書かせる。
- ② 両者の地図上の位置を示す。
- ③ サンパウロの写真から見える、様々なブラジルの現状、問題について説明する。
  - ・白人（ポルトガル人）は、大航海時代の植民地化の歴史
  - ・カトリック
  - ・VISAカード（アメリカの銀行）
  - ・ファストフード・チェーン
- ④ 都市部での写真から、日本とのつながりに気づく
  - ・すき家、交番、ヤクルト、東洋人街など
- ⑤ ベレンの写真から、様々なブラジルの現状、問題について説明する。
  - ・電気の普及
  - ・衛星放送
  - ・黒人奴隷の子孫
  - ・商品作物の栽培と大規模農業経営、女性、子供の労働と貧困
  - ・アマソンの熱帯雨林
- ⑥ 一言にブラジルといっても非常に多様であることを理解させる。  
また、離れて関連性がない事柄のように見えても、裏側ではつながっていることに気付かせる。



サンパウロの市場



サンパウロの町の風景



ベレンの森の家

👉👉がポイント!

自由な発想で手元の紙に書かせることが重要。クラスの中で挙手して、あるいは指名して答えるとなると、意見は出てこない。

#### 生徒の感想

- ▶ 何気ない日常生活の中にも、グローバリゼーションの影響がたくさんあるんだなあと思った。
- ▶ 同じブラジルでも、場所によってぜんぜん違うなと感じた。

#### ◆所感◆

写真の中に詰まったいろいろな要素を主体的に発見をしていく姿はとても楽しそうで、盛り上がった。突飛な推測をしているようで、実は鋭い視点であったり、裏に広がる社会背景にも言及があったり、生徒が出すアイデアによって、深い学びが創造されたように思う。

## 2時限目：ブラジルの様々な姿と問題、それらと世界とのつながりを学ぶ①

ねらい…経済発展・貧困・農業・教育・環境・先進国の6つの要素のそれぞれの特徴を理解させ、それらの互いの関連を図示して描き出させる。

### ◆内容◆

① ブラジル社会のいくつかの問題について解説する。

経済発展 (BRICS)	農業 (輸出)	教育問題
環境問題 (森林資源)	貧困 (経済格差)	先進国との関係

それぞれの分野で言及した事項

- ・ 経済発展：GNP、BRICS
- ・ 農業：輸出量の多さ、商品作物のモノカルチャー
- ・ 教育問題：中途退学の多さ、教育の質の問題
- ・ 環境問題：森林面積の減少、公衆衛生、環境教育の必要性
- ・ 貧困：ジニ係数、農村部の低賃金労働
- ・ 先進国との関係：農産物輸入、フェアトレード、環境保護への関心



コーヒーの麻袋

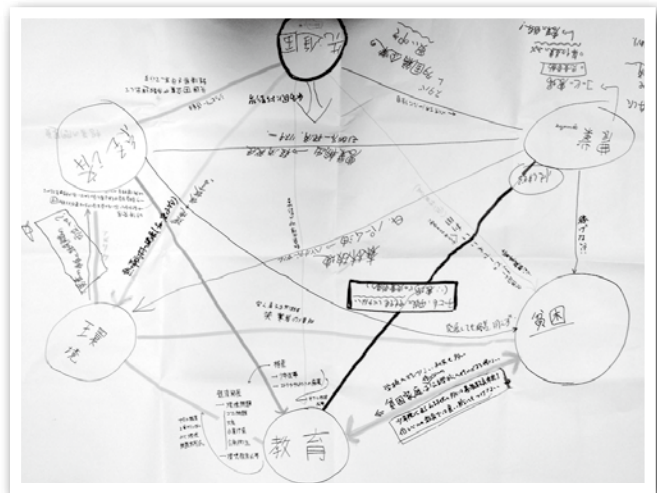
② その背景についてのより詳しい学習プリントを読ませる (各分野1枚ずつ)

③ ある程度時間が経過したら、グループに1枚ワークシートを配布し、6つの要素の相互の関連性を書き込ませる。

④ 相互にどのような関連性があるのか、グループごとに順に発表させる。

👉👉がポイント!

謎解きをしているような感覚を持てるように、各項目の関連については、さりげなく理解できるような学習プリントを作成する必要がある。



各項目の関連性ワークシート

### 生徒の感想

- ▶ 最近、世の中のことを考えると、政治も経済も文化も何ひとつ切り離せるものがない、世界ってなんなんだろうって思う。

### ◆所感◆

社会問題の構造、様々な要素の複雑な絡み合い方を理解してゆく生徒の姿は、まるで大人のようにあった。関連性ワークシートを作りながら、「政府」や「文化」といった新たな要素を追加したり、余白に「日本の国民の行動がいかに関係する社会問題につながるか」についてフローチャートを描いたり、創意工夫に満ちた活動ができた。

## ◆内容◆ ② 「より詳しい学習プリント」 から一部紹介

### 教育

1950年代、戦後間もない頃は私立の学校はほとんどなく、公立・国立の優秀な学校がたくさんあった。1934年に設立された USP(サンパウロ州立大学)は、「ブラジルの東大」と呼ばれ、現在でも国内で有数の大学である。1960年代、ブラジルが軍事政権に移った後、貧が悪くてもより多くの子ども達に教育を受けさせるため、午前・午後 の二部制になり、教師を増加した。その結果、教師の質も落ち学力も低下した。

先のサンパウロ州立大学に代表されるように、ブラジルの大学は国立・州立の学校が学費も安く優秀とされている。一方で、そのような偏差値の高い大学に入ることができるのは、小さい頃から私立学校で英才教育を受けた子ども達である。つまり、裕福な家庭で生まれ、小さい頃から私立学校で学習している子ども達が、学費の安い優秀な公立の大学に進学するという流れだ。裏を返せば、家庭が裕福でない満足に教育を受けられず、大学も行くことができないという事態が発生する。

7～14歳の義務教育年齢にある児童の就学率は、1996年は94.5%になった。しかし14歳になると76.6%が落着き経験者である。7歳で22.8%、10歳で57.8%と、年齢が進むにつれて落着き率は高くなっていく。この学校から進出するので、ブラジル人の10歳以上の経済活動人口の平均学歴は5.4年となっている。年々学歴を要求される労働市場では通用しない労働力が増加していく。人種別の就学率の差は大きく、10歳以上の白人の平均学歴は6年であるが、黒人と褐色は約4年である。10～14歳は児童としての義務教育年齢で、労働を禁止されているが、この年齢層の16.9%が労働に従事している。特に貧困地帯である東北部の農村地域に多い。学校に行くよりも、農作業をするほうが優先されるのだ。貧しい農家にとって、働き手はひとりでも多いほうがよい。

経済発展に伴い、サンパウロなど大都市で環境問題が起きている。ゴミ問題、大気・水質汚染、公害衛生などについて、環境教育の必要性が叫ばれる。また、都市での少年犯罪の増加、ストリートチルドレンによる麻薬の使用など、就学率の上昇とともに、市民としてのモラルを身につける教育も求められる。

### 経済発展

ブラジルは日本の約23倍の広大な国土を活用し、伝統的な農牧業の他、工業および鉱業が盛んです。特に、次世代エネルギーのひとつとして注目が集まっている「バイオエタノール」の生産量は世界一です。ブラジルではさとうきび等からバイオエタノールを精製し、それを燃料とする「フレックス燃料自動車」が主流となっています。次世代エネルギーは、石油に代わる燃料として先進国から注目されています。ブラジルの経済成長は、農業の好調と大きく関係しています。

ブラジルは、ポルトガルは言うまでもなく、ドイツ、イタリアなどからの移民を多数受け入れています。それらの国の文化的影響は大きいですが、日本とブラジルの外交関係は1895年から始まります。1908年には日本から本格的移民が開始され、その後、第二次世界大戦中の難民と国交回復を経ています。ブラジルは世界の中でも特に日本との縁が深い国になっています。日本の高度経済成長期にかけて様々な業種の日本企業がサンパウロを中心に数百社進出しています。

ブラジルは、豊富な天然資源を有しており、特に鉄鉱石の輸出量は世界一です。世界的な鉄産資源の不足⇒価格高騰が、ブラジル経済には大きなプラスとなっており、近年の高成長を支えています。それに、ブラジルの国内はまだ未開発の地域が多いです。特にアマゾン川流域は、豊富な天然資源が眠っていると同時に、約2万種類もの固有種が存在していると言われています。世界的に需要が高まるバイオマス(天然資源)、そして微生物・細菌などのナノテクノロジーの観点からも、ブラジルの豊富な生物環境への期待が高まっています。アマゾンの大森林は、ブラジルの経済発展にとって大きな助けとなりそうですが、一方で、地球環境の保護の観点からは、原生林にとどめておくべきという考え方も強いです。

ブラジル人のみならず、欧米の多くの人々がNGOなどの活動を通してアマゾンを守ろうとしています。

経済発展に伴い、都市部では高い教育を受けることが求められる職業の雇用が増え、教育を受けられる者と教育を受けられない者の格差が広がっています。貧しい農村や、都市のファベラなどで貧困にあえぐ子どもたちは、十分な教育を受けられない。結果、貧富の格差は広がることとなる。先進国の企業も多くが、サンパウロなどの大都市に進出し、都市部で経済的中層以上を相手に商売をしている。ブラジルの経済発展により、他国の企業も恩恵にあずかるようになるが、他国の企業にとって、ブラジル国内の貧困問題はどのようにてもよいことである。

### 農業②

コーヒー「ある一本の映画を見てきました。舞台はコーヒー生産地で発祥の地、エチオピア。そこで貧困に陥るコーヒー農家とその方達を支援する農協職員ドキュメンタリー映画でした。

近年起こっているコーヒー豆相場下落と大手コーヒーチェーンの買い叩きの現状。農村の人々の安定した生活が出来なくなり、労働に駆り出される子供達の教育はおろか、飢えや病に苦しんでいる現実。それがこの映画のテーマ。

この問題はアフリカだけでなく世界中のコーヒー農園の問題として数年前から大きく取り上げられるようになってきました。解決策の一つとして、「フェアトレード」と言う売買のシステムがあります。

最近よく見聞きしませんか？コーヒーは、ニューヨークとロンドンで先物相場が決まり、その相場を基準に売買が行なわれます。

そこに出てくる値、豊作であれば相場は下がり、不作と予想されれば相場は上がる。6、7年前には供給過剰に陥り、過去最低の値で取引されていました。

先進国の先物相場の影響に振り回されるコーヒー農園の人達は、生活のためにコーヒー農園をやめました。高値で売れる麻薬に、麻薬に関して「撲滅」を謳っている一方で、生活のために栽培する。悲しいかな、この歪んだ連鎖は止められないのかも…。

世界のスーパーマーケットで販売されている商品の7割がパーム油やその派生物を含んでいる製品です。アブラヤシから効率的に採取できるパーム油は、大豆や菜種油などより10倍以上の生産性を持ち、栽培に必要な土地は少なく済みます。ブラジルは輸出需要を見込み、アブラヤシの栽培を増やそうとしています。

パーム油は世界の150以上の国で食糧、そして代替エネルギーの供給源(バイオディーゼール)として消費されています。

### アマゾン(環境)②

世界各地の広大な熱帯雨林が放牧やプランテーション、あるいは農業耕作地へと姿を変えている。もっとも目に余る森林伐採が起きているのはブラジルだ。1988年以降、ブラジルのアマゾン川流域で

は、(ドイツの国土面積より広い)40万平方キロ以上の森林が伐採されている。伐採された森林は農地や牧草地とされ、大豆や牛肉など、先進国で需要が拡大している農産物の生産に利用されている。

一方、森林伐採が環境に与える悪影響も増大している。伐採が進むアマゾン盆地は無数の動物種のバグダッドである。さらにアマゾンの熱帯雨林は、地球環境を調整する重要な役割も果たしている。

森林を伐採して焼き払えば、植物や土壌に閉じ込められていた二酸化炭素が大気へ放出されてしまう。つまり気候変動という視点から考えると、森林伐採は石油やガスといった化石燃料を燃やすのと同じ悪影響がある。最近の研究によると、世界の二酸化炭素排出量の10～15%は、森林伐採とそれに関連する活動によるものだ。

幸い、ここに来てアマゾンの事態は好転している。ブラジルでは2004年以降、新たな森林伐採が83%減少するなど、熱帯雨林破壊のペースが低下している。これは土地の用途制限を定め、自然保護区を設け、違反行為の取り締まりを強化するといった政府の対策による。

同時に、(森林の減少・劣化を回避することで、温室効果ガス排出の削減を目指す)REDDと呼ばれる気候変動対策のテストケースとしても注目を集めている。REDDは森林に蓄積された二酸化炭素に値段をつけ(価値を査定し)、先進国が途上国に資金を支払うことで森林を保護してもらい、森林に蓄積されている二酸化炭素の排出を抑えた分、先進国における排出量を相殺するというコンセプトだ。

参考ホームページ 「BRAZIL JOURNAL " ブラジルサンパウロ州の学校教育から見る社会格差 "」

<http://www.tryfunds.com/>

「THE JAPAN INSTITUTE OF LABOUR」

<http://www.jil.go.jp/>

「ゴールドマン・サックス・アセットマネジメント株式会社

" 環境に優しいバイオエタノール先進国ブラジルについて知る！ "」

[http://www.goldmansachs.com/japan/gsitm/column/emerging/brics\\_sp/brazil.html](http://www.goldmansachs.com/japan/gsitm/column/emerging/brics_sp/brazil.html)

「ネップレコーヒースタンド " コーヒー農家の危機～明日は我が身？～ " 久宗貴則」

<http://www.kcn.ne.jp/netpress/coffeest/file20/index.html>

「森林伐採と地球温暖化 —— 農業開発と環境保護を両立させるには

Jeff Tollefson 2013年4月10日発売号」

<http://www.asahi.com/international/articles/TKY201304170127.html>

### 3時限目：ブラジルの様々な姿と問題、それらと世界とのつながりを学ぶ②

ねらい…ブラジルと世界、そして日本との関係についてより深く学び、相互の結びつきの深さを知る。

#### ◆内容◆

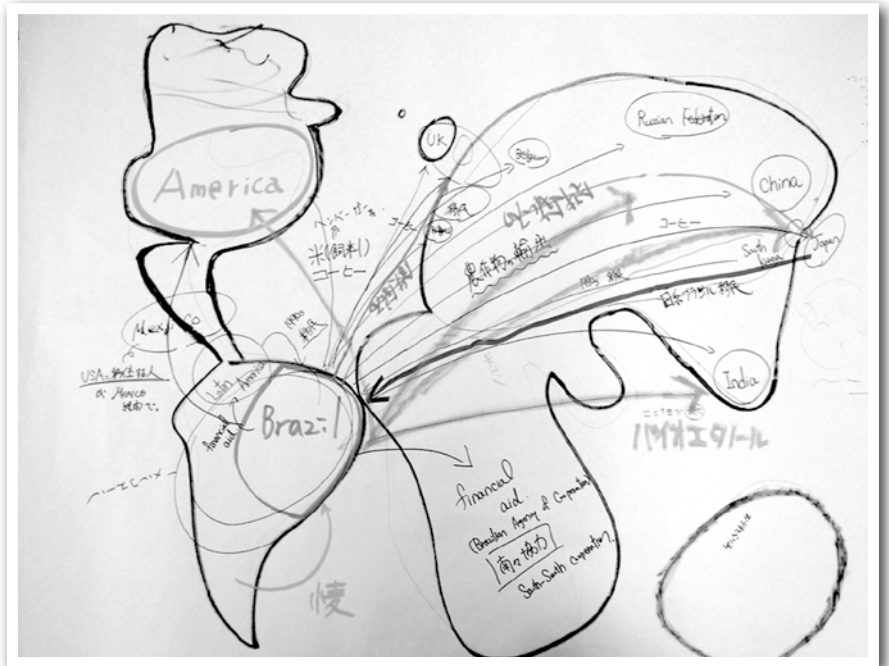
- ① 世界とブラジルとの連関についてより深く知る。
  - ・ワールドカップ反対のデモと海外メディア
  - ・チエテ川の護岸工事と JICA の援助
  - ・都市の発展と農村での失職、ファベラの形成
    - 地球データマップ『世界の貧しさのためにできること』の movie
  - ・日系移民と農業、アグロフォレストリー
- ② ブラジルを中心としたグローバリゼーションマップを作成する。



チエテ川の護岸工事

#### 👉👉がポイント!

初回の授業の開始時に、3時限目で内容をまとめた発表を行うと伝えて、ノートにできるだけ全部の事柄のメモを取るよう指示をしておく、マップ上に多くの書き込みが生まれ、学びの結果が可視化される。



▲グローバリゼーションマップ

#### 生徒の感想

- ▶ 実際に写真やコーヒーの麻袋を見て、身の回りの様々なものが、外国で低賃金で作られ、途上国の方々に厳しい生活を強いているものであることに気づかされました。
- ▶ 普段何気なく食べているチョコレートやコーヒーなども、世界の流通の体制に気を留めて食べるようにしたい。
- ▶ 「便利」「快適」と思っている生活の中には、世界のどこかでその生活の実現にかかわっているたくさんの人々がいることを感じた。

◆所感◆ グローバリゼーションマップ作成時に本授業のこれまでのノートを使用するが、その書き込みの量の多さから、学習内容の豊富さが読み取れた。ムービーで見た「先進国の都合によって生まれる農産物輸出国の問題」について、強い印象を受けたようであった。

## 4時限目：自身のこれからの生き方について考える

ねらい…ブラジルに生活する人々の姿を見て、今までの授業の内容を参考にし、「生き方」についてのレポートを作成する。

### ◆内容◆

- ① 環境保護 NGO の活動を紹介します。
- ② INPE（ブラジル国立宇宙研究所）の活動を紹介します、所長のインタビューを見る。
- ③ 森林法、アグロフォレストリーを紹介します。
- ④ アグロフォレストリー農場の風景を動画で見せる。
- ⑤ 農業を化学的に研究する大学院生のインタビューを見る。
- ⑥ 地球上の様々な問題と自分自身が関係していることをふまえ、自身のこれからの生き方について考え、レポートを書く。



環境保護 NGO の活動

### 生徒の感想

- ▶ 研究員の方が「自身のやりたいことを考えることは大事だ」とおっしゃっていたのが印象的でした。
- ▶ 今、グローバル化が進み、国と国との境がはっきりしていないような世の中で、自分の身をどこに置くのかとても悩む。
- ▶ たくさんのことを知れば知るほど、より客観的な視点で物事を見ることができるようです。世界の問題を「私には関係ない」として考えるのではなく「私自身に関係ある」問題ととらえられるように、いつも意識できたらよいなあと思う。

◆所感◆ 字面で学ぶのではなく、「リアル」な感覚を持って実際の人からのことばで学ぶことにより、学習内容を、より自分自身の日常・将来と結び付けることができたようだ。レポートを書いている時間でさえ、盛り上がっていて、「他の人のレポートを読みたい。だって普段、友達でも、こんな話できないから」という声がよく聞こえた。

## 4. 成果

ある一つの国を視点として定めることにより、一見異なる分野のように見えるさまざまな問題について、互いに関連させて考えることができた。現地地で収集した生の素材を使うことによって、遠い世界を身近に感じることができ、地に足をつけた広い視野を持った考え方で、生徒それぞれが生き方について考えることができた。

## 5. 課題

単発の企画に終わることなく、継続的に、様々な国や問題を取り上げながら、生徒を刺激し続ける必要がある。教師の工夫や努力によって、生徒の視野を広げて考えを深める効果は大きくなる。ただし、個人の力では限界があるので、多方面からの協力を仰げるような環境や、情報へのアクセスを得られるとよい。

### 参考資料



INPE 所長のインタビュー



アグロフォレストリーの風景